

(別紙様式3)

令和3年3月29日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 島根県松江市殿町1番地  
管理機関名 島根県教育委員会  
代表者名 教育長 新田 英夫 印

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和2年5月8日(契約締結日)～令和3年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名 島根県立出雲農林高等学校  
学校長名 山根 登  
類型 プロフェッショナル型

#### 3 研究開発名

出雲を愛する農業人材の育成 ～地域資源の再発見 出農 地域創生プロジェクト～

#### 4 研究開発概要

本校が所在する出雲市は人口約17万人、島根県では松江市に次ぐ中核都市であり、農業が盛んな地域である。しかしながら出雲市の農業就業者は減少の一途を辿り、就業者の約7割は60歳以上と高齢化が進んでいる。そこで、出雲市と学校の共通課題である「出雲農業の担い手・後継者の育成」に向け、出雲市と学校との協働体制の構築及び地域協働学習カリキュラムの開発を目的に研究開発を実施している。

本研究では「出雲創生力」を育成するために、出雲農林高校、出雲市及び中核パートナー組織により「出雲農林高校支援コンソーシアム」を組織した。また、「縁結びコーディネーター(カリキュラム開発専門家)」、「縁つなぎコーディネーター(地域協働学習実施支援員)」からなる「出雲魅力化コーディネーター」を指定した。これらにより、「出雲の課題を組織で解決するために、周囲と協働して新たな価値や魅力を生み出そうとする応用力・企画力ある人材」、「出雲資源の魅力や価値を理解し、主体的に地域創生に結びつける行動力・実践力ある人材」及び「地域の課題解決のために意欲的に学習活動に取組み、知識・技能を未来創造につなげる創造力ある

人材」の育成を図った。

5 教育課程の特例の活用の有無

教育課程の特例の活用「無」

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
コンソーシアム会議		1回	2回	3回	1回		1回	1回	2回	1回	1回	2回	
運営指導委員会				1回	2回	2回	1回	1回	2回	2回	1回	2回	
コンソーシアム構築・運営支援				研修①				研修②			研修③		
	教育庁各課横断の伴走												
探究学習推進	担当者設定		研修①	フォロー①	ミニ研修①	ミニ研修②	フォロー②	中間発表会	ミニ研修③	フォロー③		発表会	研修②
	探究指導主事の伴走												
コーディネーター研修							①研修 ②研修	③研修	④研修			⑤研修	
高校魅力化評価システムによる調査・検証			研修	調査	バック フィード		研修 活用						
	各校の検証、県担当者の伴走												
ICT機器整備			研修①	研修②									
	機器・回線整備			順次運用									
人員配置													定配置 決
	予算要求												

(2) 実績の説明

コンソーシアム構築・運営支援	4箇所の先導モデルの知見を他のコンソーシアムの設置や運営に活用。効果的な構築・運営のための年間を通じた伴走を実施。コンソーシアムの運営費、運営マネージャー配置費を支援（県1/2）
探究学習推進	令和2年度から教育庁に探究学習専任指導主事を配置。あわせて探究学習を推進する教員を各校1名設定し研修を実施（必修5回、希望者3回、助言支援随時）。探究学習（地域課題解決型学習）実施に係る経費を支援し、高校生・教員が探究学習の成果を発表する場（「しまね大交流会」、「しまね探究フェスタ」）を設定（今年度はオンライン実施）。その他年間を通じて探究学習の推進について助言等を実施。
魅力化コーディネーター研修	市町村等で配置されている魅力化コーディネーターの研修や、教職員のコーディネート機能の研修を実施。
高校魅力化評価システムの構築と活用研修	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するため、生徒と地域へのアンケートを実施。検証シートを活用し、学校経営のPDCA構築のための教職員研修を実施。
ICT環境の整備	オンライン授業や会議を可能にする回線、モバイルルーター、パソコンを整備。教員研修を実施し、教育活動への活動を促進。

人員配置	新しい高校づくりに向かう体制構築として、県単独加配の主幹教諭をR2年度は12名配置、R3年度は3名増員。さらに、R3年度は高大連携を推進する職員を3名配置。
------	--

ア コンソーシアムの構成、カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員の配置について

(ア) コンソーシアムの構成団体（出雲農林高校支援コンソーシアム：出雲農業創生会議）

所属	役職	氏名	所属	役職	氏名
出雲市	市長(委員長)	長岡 秀人	島根県立 出雲農林高等学校	校長	山根 登
出雲市教育委員会	教育長	杉谷 学	島根県東部農林 振興センター	所長	川津 章弘
出雲市農林水産部	部長	金築 真志	島根県農業技術センター	所長	鳥屋尾 健史
島根県農業協同組合 出雲地区本部	営農部長	川上 弘信	島根県畜産技術センター	所長	北村 千寿
島根県農業協同組合 斐川地区本部	営農部長	伊勢 雅和	出雲市農林水産部 農業振興課	主査(事業担当)	安喰 英男
島根県教育委員会	教育指導課長	多々納 雄二	出雲市教育委員会 教育政策課	課長補佐(事業担当)	常松 晃好

(イ) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
<b>第1回全体会</b> 令和2年8月18日	<b>【協議】</b> ○規約・委員名簿及び事業予算について説明 ○令和2年度（研究開発2年次）事業内容について説明 ○新学習指導要領の改訂に伴う各科の教育内容について説明 <b>【学習活動の見える化（学習成果披露）】</b> ○課題研究成果発表 食品科学科第3学年（6名）「優良系統デラウェア苗木育成で産地振興！！」
<b>第2回全体会</b> 令和3年2月8日	<b>【協議】</b> ○令和2年度（研究開発2年次）事業報告について説明 ○新学習指導要領の改訂に伴う各科の教育内容について説明 <b>【学習活動の見える化（会長激励）】</b> ○「希望の証」授与（対象生徒19名）

(ウ) 出雲縁結びコーディネーター（カリキュラム開発専門家）について

業務は①持続可能な出雲農業の実現のための農業学習支援及び②ふるさとへの興味・関心・貢献意欲の醸成のためのカリキュラムの開発等である。本校はJGAP認証（ブドウ）、島根県版GAP認証である美味しまね認証ゴールド（コメ・メロン・トマト）及び美味しまね認証（牛肉）を取得しているため、これらを活用した安全安心な農業学習の深化に関わる支援等を実施した。

(エ) 縁つなぎコーディネーター（地域協働学習実施支援員）について

①各学科と地域による出雲資源を活用した協働プロジェクト学習の活動支援及び②地域課題を解決する実践力の育成のための協働体制の構築等が業務である。第2学年を対象とした

「出雲縁つなぎプロジェクト」の地域課題の解決に資する研究活動に対して生徒自身がより効果的、主体的に取り組めるよう、地域関連産業等との連携支援を実施した。

イ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

名称	締結日	締結団体・企業
人づくりと和牛育種連携事業	平成24年 5月11日	島根県畜産技術センター他
出雲農林高等学校と古代出雲歴史博物館との連携	平成27年10月11日	島根県立古代出雲歴史博物館
産官学連携課題研究事業	平成27年10月17日	株式会社ホテル一畑
フルボ酸の植物活性効果研究と気象系の農業活用に関する覚書	平成28年 1月13日	株式会社テクノシステム
出雲コーチン利用促進協議会	平成29年 6月15日	島根県農業協同組合他
出雲地域GAP推進協議会	平成30年 5月14日	出雲市農林水産部農業振興課他
地域との協働による高等学校教育改革推進事業に関する協定書	平成31年 2月 1日	島根県農業協同組合出雲地区本部 (地域協働学習実施支援員)
	平成31年 2月 1日	島根県東部農林振興センター (カリキュラム開発専門家)
主要地方道出雲市停車場線の車止め兼プランターの使用と維持管理に関する協定書	令和 3年 3月 1日	島根県出雲県土整備事務所 出雲市駅通り商店街振興組合

ウ 事業終了後の自走を見据えた取組みについて

全ての県立高校への「高校魅力化コンソーシアム」設置を目指して、事業の再構築を行い、支援体制の充実を計画している。このような伴走体制の整備を推進することで、研究期間終了後もコンソーシアムへの参画等、実態にあわせた体制の構築に関して既に検討することができている。また、県農林水産部・県教育委員会が連携して実施する「地域の若い農業者育成・定着支援事業」の中で、事業の継続的な実施のために支援の方策を検討している。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程 (回)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
持続可能な農業学習	(2)	(2)				1	3	1	2	1	3	3
スマート農業学習	(2)	1(2)			1	1	2		1	1	1	2
地域課題解決型学習	(2)	1(2)	1	1	1	1	3	2	2	1	3	3

※ ( ) は事業締結前の検討・協議の実施回数

(2) 実績の説明

ア 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本事業は、農産物(食品)の安全を確保し、より良い農業経営を実現する「持続可能な農業学習(GAPの理念)」、農業の効率化及びICTの活用など、分野横断的な連携によるSociety5.0への対応を視野に入れた「スマート農業学習」及びふるさとへの興味関心・貢献意欲を醸成し、地域農業の魅力や課題を再発見することでプロジェクト学習に結びつける「地域課題解決型学習」の3つの取り組みを中心に令和2年度の研究開発を推進した。

イ 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

本事業の中核となる学校設定科目「サイエンスアプローチ」において、探究的な学びの土台形成を目的に国語・数学・英語の学び直しトレーニングによる基礎学力の定着を図ると同時に、各専門科目の学習で身につけた知識・技術を地域課題解決型学習の実践につなげることを目的に「農業キャリアガイダンス」及び「出雲資源探究学習」を実施した。また、農業科目「農業と環境」、「総合実習」を中心に GAP 学習及びプロジェクト学習において PDCA サイクルによる探究的活動の手法について実践的な学習を行った。第2学年において科目「課題研究」では、各学科の地域課題解決に資する課題研究8テーマを「出雲縁つなぎプロジェクト」に位置付け、より探究的な学びにつなげ、継続的なプロジェクト学習として内容が深まるように工夫をした。

ウ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組みについて

本事業では、学校設定科目「サイエンスアプローチ」を教科横断的な学習の推進科目として位置付け、研究開発1年目は「農業キャリアガイダンス」を展開した。2年目となる令和2年度は、農業キャリアガイダンスに加えて「地域課題探究学習」を第2学年中心に展開した。主な活動としては、地域農家及び関連産業の視察研修や、出雲縁つなぎプロジェクトを継続して実施している。この活動で得られた知識や経験で得たことを、各学科の農業科目における学習に結びつけ、農業学習への意識を向上させると共に、地域を題材とした探究的な活動へフィードバックできる指導体制の構築を推進している。

エ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラムマネジメントの推進体制

今年度は、第1・第2学年を対象として「農業・地域・学校生活に関するアンケート調査」を7月及び1月の合計2回実施し、生徒の「①持続可能な農業（GAP）に関わる意識」・「②スマート農業に関わる意識」及び「③地域・農業に関わる意識」の変容について調べ、数値化した。このアンケート結果をもとに、生徒の意識及び現時点における本校課題を把握し、今後の指導方針や目標等の設定のための基礎資料やコンソーシアムにおける共有資料とし、地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラムマネジメントの推進体制を構築している。そして、本調査の分析結果をもとに、学校設定科目「サイエンスアプローチ」において、出雲縁つなぎコーディネーターの支援による「農業キャリアガイダンス」を実施した。また、縁結びコーディネーターの支援による GAP 学習については、安全安心な農業生産の重要性及び農業経営におけるコミュニケーションの重要性の観点から、地域農家による講習会を実施した。今後も生徒の意識の変容を注視しながら PDCA サイクルによる改善を実施することで、探究的な学びの実現につなげていく。

オ 学校全体の研究開発体制について（教員の役割、それを支援する体制について）

科・職	氏名	役割
教頭	黒崎 千春	・コーディネーターとの連絡調整及び校内教職員への連絡及び情報共有 ・農業キャリアガイダンス担当
植物科学科 農場長	立原 祐二	・コーディネーターとの連絡調整及び農業委員会等での連絡及び情報共有 ・出雲市農林水産部との連絡調整

理科 教務部長	鈴木 謙治	・校内カリキュラムマネジメントに関わる検討及び調整 ・基礎学力定着に関わる教育指導担当主任
動物科学科 教諭	三崎 忠幸	・研究授業担当 ・事業意識調査開発担当
食品科学科 教諭	吉川 樹	・研究開発主任 ・研究開発推進

カ カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて  
カリキュラム開発専門家の配置

島根県東部農林振興センター出雲事務所長 柏原 仁 氏（都度依頼）

活動日程	活動内容
令和2年6月12日	<u>コーディネーター打合せ会に出席</u> ・令和2年度事業における活動計画について協議 ・出雲農林高等学校の教育活動について情報共有
令和2年6月19日	・事業3か年におけるGAP学習に関わる検討協議
令和2年8月6日	<u>事務局会に出席</u> ・第1回全体会に関わる事業内容について協議 ・生徒の課題研究成果発表 指導助言
令和2年8月18日	<u>第1回全体会に出席</u> ・令和2年度事業内容について協議 ・コンソーシアムでの取り組み等の情報共有
令和3年1月12日	<u>コーディネーター打合せ会に出席</u> ・GAP学習の充実に関わる協議及び情報共有 ・GAP講習講師選定及び内容に関わる協議
令和3年2月8日	<u>第2回全体会に出席</u> ・令和2年度活動実績についての評価 ・出雲農林高等学校の教育活動について情報共有
令和3年2月15日	<u>コーディネーター打合せ会に出席</u> ・GAP講習会内容に関わる検討（講師：神田農産 神田氏を含む）
令和3年3月12日	<u>農業キャリアガイダンス 授業参観・講話</u> ・食品科学科 第1学年「未来に続く農業経営」 ・GAPで実践する安全・安心な農場運営に係る講話

地域協働学習実施支援員の配置

島根県農業協同組合出雲地区本部西部営農センター長 鎌田 誠二 氏（都度依頼）

今年度は、令和2年4月から9月にかけて、昨年度の地域協働学習実施支援員である石飛 英彦 氏を配置し、令和2年10月より現支援員である鎌田 誠二氏に依頼している。

活動日程	活動内容
令和2年6月5日	<u>事務局会に出席</u> ・令和2年度事業における活動計画について協議 ・出雲農林高等学校の教育活動について情報共有
令和2年6月30日	・農業キャリアガイダンス内容検討
令和2年8月6日	<u>事務局会に出席</u>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回全体会に関わる事業内容について協議</li> <li>・生徒の課題研究成果発表 指導助言</li> <li>・食品科学科 第1学年 県内企業視察研修 研修先選定に係る協議</li> </ul> <p style="text-align: right;">※新型コロナにより開催延期</p>
令和2年8月18日	<p><b>第1回全体会に出席</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度事業内容について協議</li> <li>・コンソーシアムでの取り組み等の情報共有</li> </ul>
令和2年10月9日	<p><b>コーディネーター打合せ会に出席</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度事業内容について情報共有</li> <li>・農業キャリアガイダンスに関わる学習内容の検討</li> </ul>
令和3年1月21日	<p><b>コーディネーター打合せ会に出席</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業キャリアガイダンスに関わる学習内容の検討</li> <li>・農業キャリアガイダンス 講師招聘支援</li> </ul>
令和3年1月28日	<p><b>コーディネーター打合せ会に出席</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業キャリアガイダンス 外部講師の日程調整</li> <li>・農業キャリアガイダンスに関わる学習内容の検討</li> </ul>
令和3年2月8日	<p><b>第2回全体会に出席</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度活動実績についての評価</li> <li>・出雲農林高等学校の教育活動について情報共有</li> </ul>
令和3年3月8日	<p><b>農業キャリアガイダンス 授業参観・講話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物科学科 第1学年「未来に続く農業経営」</li> <li>・GAPで実践する安全・安心な農場運営に係る講話</li> </ul>

キ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

本事業を進めていく上で学校長は、年度始めの職員会議において事業全体の主な目的と取り組み内容について説明している。併せて、事業全体の取り組み状況や導入機器についての報告等、職員全体の周知に努めている。また、定期的開催される校内事務局会や推進委員会の協議内容を把握し、進捗状況に対する適切なアドバイスを行っている。なお、予算の執行等についても、事務長及び予算担当者と密に連絡を取り合い、適切な処理を行っている。

事業改善の仕組みとして、出雲農業創生会議全体会及び運営指導委員会等での指導内容や評価を事業の実施に迅速に反映させるため、計画の見直しや方法の改善を担当者と協議しながら進めた。また、今年度は新型コロナウイルス拡大防止対策の観点から、第1学年県内企業視察研修及び第2学年県外企業視察研修等の延期、学校農業クラブ連盟主催の各種大会の中止等、当初計画では予測できない事態が多発した。これらにより、生徒の学習の機会及び学習成果披露の場が極端に少なくなることが予想された中でも、学校長主導の下で外部関連機関等との調整や開催方法の工夫を行ったことで各研修の開催時期及び研修内容の再考や出雲農林高校発表会の開催を実施することができ、探究性や協働性の向上等、より生徒の学習の深化を図ることができている。

ク カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取り組みについて

今年度は、研究開発2年次の取り組みとして「基礎学力の定着と創造力の育成」及び「出雲資源探究学習」を中心に研究開発を推進した。その中で、学校設定科目「サイエンスアプローチ」

の学習において、地域協働学習実施支援員と連携し、「農業キャリアガイダンス」を実践した。この活動において、中核パートナー組織である島根県農業協同組合等を中心に、生徒と協働した教育活動を実践することができた。また、カリキュラム開発等専門家と連携し、第1学年を中心にGAP学習を展開した。本校は、主に植物科学科・食品科学科・動物科学科の3学科でGAP認証の取得に関わる学習を展開している。今年度は、「安全安心な農業生産の重要性及び農業経営におけるコミュニケーションの重要性」の観点から、農業生産から加工、流通までの6次産業化を視野に入れた生産工程管理に関する学習の深化を図ることができた。

出雲資源探究学習では、今年度より第2学年の課題研究活動を中心に、地域課題の解決に資する「出雲縁つなぎプロジェクト」を8テーマ選定し、連携機関及び連携事業所等との共同研究を通じた協働学習を実践している。このプロジェクトにより、生徒の主体性、社会性及び協働性を向上させ、探究心を持ち、地域課題を解決できる人材育成を図りたい。また、次年度は生徒が得た知識・技能を「出雲創生実践」に結びつけ、より地域と協働した学習内容となるようカリキュラム開発の推進を図りたい。

#### ケ 運営指導委員会等、取組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について

出雲農林高校が取り組む「出雲を愛する農業人材の育成～地域資源の再発見 出農 地域創生プロジェクト～」の研究開発に関わる事業について専門的な知見から指導、助言及び評価に当たる。運営指導委員は、農業分野の専門家3名、教育分野の専門家2名で構成することとし、次の5名に運営指導委員を委嘱した。

#### 運営指導委員会の構成員

所属団体（所属・名称）	氏名
出雲地方農業士会（有限会社黒田農場）	会長 黒田 富広
島根県農林水産部農業経営課	管理監 角森 章子
公益財団法人しまね農業振興公社就農促進課	課長 朝倉 祥司
一般社団法人地域・魅力化プラットフォーム	共同代表 岩本 悠
島根県教育委員会	教育監 佐藤 睦也

令和2年度は、令和2年10月2日及び令和3年2月4日に運営指導委員会を開催し、事業報告（研究内容の進捗状況、発表等要項説明、今後の計画等）について協議した。今後も研究計画をもとに事業を実施していく中で必要とされる研究活動が効率よく進み、成果が確実に向上するように、管理機関と連携を図る。

#### コ 類型毎の趣旨に応じた取組みについて

本年度の取組みは、昨年度より継続して基礎学力の定着と創造力の育成に関わるプロジェクト学習の基礎を形成するため、学校設定科目「サイエンスアプローチ」における数学・英語を中心とした基礎学力定着及び農業キャリアガイダンスに関わる取組みを、第1学年を中心に展開した。第2学年は課題研究活動を中心に「出雲縁つなぎプロジェクト学習」を、第3学年は地域と連携した「地域課題解決型プロジェクト学習」を中心に展開した。これらの取組みにより、学校、出雲市及び中核パートナー組織の連携・協働を強化し、「出雲創生力（創造力・企画力・実践力）」につながる地域創生に必要な資質・能力を向上させた出雲を愛する実践力のある農業人材を育成するために、PDCAを活用したより質の高い地域協働体制



を構築した。

#### サ 成果の普及方法・実績について

本年度の事業成果の普及は、7月に開催された担当者会議での報告に加え、県教育委員会が主催する「高校魅力化コンソーシアム研修会」(参加者：教職員、市町村、コーディネーター、関係機関)、「探究学習推進担当者会議(探究フェスタ)」等において、専門高校での地域と協働によるコンソーシアム構築の成果と課題、校内の実施体制等の実践発表をし、県内の各地域・各学校における今後の方向性を共有しながら、本年度の成果を報告した。また、地域と協働した研究成果の普及は、出雲コーチン利用促進協議会が開催した総会での発表をはじめ、マイプロジェクトアワード2020(しまね探究フェスタ)及び和牛甲子園(全国農業協同組合連合会主催)等、多岐に渡り普及のための活動を実施した。次年度以降は、オンライン会議システム等を活用し、より広範囲への事業の成果発表を計画している。

#### 8 目標の進捗状況, 成果, 評価

成果目標の設定(アウトカム)では、「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」に対する回答割合が目標値65.0%に対して70.0%と高い値を示した。また、「勉強したものを実際に応用してみる」に対する割合が60.9%と目標設定値60.0%を達成することができた。その他の数値は目標値より低い値を示しているが、研究開発1年目と比較して数値の上昇傾向が見られるものが多い。

地域人材を育成する高校及び地域としての活動指標(アウトプット)では、今年度コロナ禍による活動中止等の影響により、動物科学科における移動動物園活動、出農モーリンベーカーリーにおけるパン製造講習会を始めとする多くの活動が制限された。しかしながら第4回和牛甲子園優良賞の受賞等、各種コンクール出品及び参加による入賞回数が令和元年度より増加しており、生徒の学習成果の評価は向上していると考えられる。次年度以降は目標設定数値を達成することに加え、コロナ禍に対応した校外教育活動の実施方法について検討・実践をしていく。

#### <添付資料>目標設定シート

#### 9 次年度以降の課題及び改善点

本事業により、社会変動が激しく将来の見通しが持ちにくい状況においても積極的に農業に関わることができる人材の育成を目指して取り組んできた。研究開発3年目となる令和3年度は以下の課題について取り組むこととしている。

##### (1) 持続可能な農業学習

- ①今年度はブドウでJGAP認証、コメ・トマト・メロンで島根県版GAP認証(美味しまね認証ゴールド)、牛肉で島根県版GAP認証(美味しまね認証)を取得した。認証の取得後も生産工程管理の改善を目指してPDCAサイクルを活用し、より質の高い持続可能な農業の取り組みとなるよう、GAP学習を中心に据えた教育課程の確立を目指す。
- ②HACCPの概念に沿った衛生管理の制度化に伴い、農産加工・畜産加工部門において実習担当者を中心としたHACCPチームを編制し、各種講習会への参加及びHACCPに基づく衛生管理のための検討会を適宜実施している。今後は管轄の出雲保健所等との連携を深め、教科「食

品製造」を主軸として日々の実習等で活用できる衛生管理の基準を生徒の学びの中で具体化していき、より安全・安心な農畜産加工品製造学習の深化を目指す。

## (2) スマート農業学習

- ①令和2年度は出雲市農林水産部「スマート農業実証プロジェクト」との連携による学習活動を展開した。令和3年度は「地域農業をスマートに支える農業人材の育成」を目指し、出雲市農林水産部、島根県農業協同組合出雲地区本部及び斐川地区本部との協働学習により、農業用ドローン・園芸作物高性能収穫機・自動給水システム・水田センサー等を活用したスマート農業の手法について体験的な学習を展開する。
- ②「令和2年度農業機械等導入事業」により導入された無人田植機等の最先端の農業機械を活用したスマート農業学習を展開する。本校を地域の研修拠点として本校生徒のみならず、地域の農業事業者も対象とした研修会を実施することで、出雲地域全体のスマート農業への理解を深めるとともに、より効率的な経営に関する学習を深める。

## (3) 地域課題解決型学習

- ①第2学年を対象とした「出雲縁つなぎプロジェクト」を実践してきたが、令和3年度は地域関連産業と共に質の高い協働を図り、地域課題を解決する手法を確立し、卒業後に地域農業積極的に関わる核となる人材の育成を目指す。
- ②学校設定科目「サイエンスアプローチ」を活用した学習ではこれまでの「農業キャリアガイダンス」・「地域資源活用学習」に加えて、移動動物園・出農ショップ・出雲そば普及活動等において「出雲創生実践」を展開することで、地域とPDCAを活用した質の高い学習活動の実践を図る。

これら地域課題解決型学習で得られた成果を、出雲農林高校発表会、農業クラブプロジェクト発表会、地域の各種協議会及び農業生産部会等でより広範囲に研究の成果が周知されるよう、事業を推進する。

## (4) コンソーシアム推進体制

出雲農林高校支援コンソーシアム（出雲農業創生会議）が設置されて2年が経過した。この間、出雲市、中核パートナー組織及び出雲農林高校の三者の協働体制による教育活動が活発に実践された。特に「農業キャリアガイダンス」、「出雲資源探究学習」及び「出雲縁つなぎプロジェクト学習」では、コーディネーターによる出雲市内の農家との協働学習の計画から実践までの支援によって、より充実した活動となっている。これら地域協働学習を通して、本校の令和2年度卒業生の県内就職率は9割を超えた。高校と地域が構築したコンソーシアムを効果的に機能させることで、生徒の地域への関心や貢献意欲が向上し、地域産業の活性化に繋がるような進路決定に結び付くことが期待される。来年度も継続してコンソーシアムにおける連携を密にし、事業終了後も継続的に連携が図れるような組織を構築する。